

さんびょう 三錨Ⅶ

本気に 元気に 根気よく

四日市市立富洲原小学校
学校だより

No. 26

平成 31 年 3 月 5 日

次年度のより良い学校づくりのために（その１） ～平成30年度 教育活動に関するアンケート結果報告（児童の部）～



本校では、平成28年度から「夢と希望をもち、未来に向かって心豊かに育ち合う子どもを育てる」を学校教育目標に掲げ、その実現を図るために、学校をあげて取り組んでまいりました。そうした当校の教育活動が、子どもたちのよりよい成長を促すとともに、保護者の皆様の信頼に応える取り組みであったのかどうかを検証するために、昨年末に実施しました児童と保護者対象のアンケートの結果をもとに、全教職員で協議を重ねてきました。今回2部に分けて、その主な協議内容(分析や改善方針等)の概略をお知らせします。次年度に向けて、解決すべき課題を整理するとともに、学校として、実行可能な項目から積極的に取り組んでいきます。富洲原小学校のより良い教育活動の推進のために、今後とも変わらぬご理解とご協力をお願いいたします。

1 アンケート結果の分析及びその活用について

- (1)昨年度との比較のなかで、特に顕著な変化が見られる項目について、その要因を探ることと、次年度に向けた今後の取り組みを改善する手がかりとしていきます。
- (2) マイナス評価が減少していない項目については、これまでの取り組みのどこに不備な点があったのかを確認するとともに、今後の指導を進めるなかで具体策への着手に努めます。
- (3) 第6回三錨 CS 会議〔2月13日に実施したコミュニティスクール運営協議会〕で、委員（保護者代表、地域各団体代表）の皆様からいただいたご助言を念頭に、さらなる改善に取り組めます。

教職員による主な協議事項の概略

＜児童用アンケートの結果から＞

※文章中の、A、B、C、Dは、以下のようになります。

A：そう思う B：だいたい思う C：あまり思わない D：思わない

◆教育活動全体に関すること

質問①「学校生活は楽しい」

91%の児童が、「そう思う」「だいたいそう思う」と肯定的な評価をしており、多くの児童は安定した学校生活が過ごせているといえます。しかし、「あまり思わない」「そうは思わない」と否定的な評価をした児童が9%（実人数39人）いることを重く受け止めています。

学校では「いじめアンケート」や学級満足度調査「Q-U 調査」などを定期的の実施したり、子どもたちの日々の様子を保護者と共有して、子どもの様子の把握に努めたりしています。学級で表情の暗い子や気になる姿の子があれば職員間で共有し、丁寧な対応に努めたいと考えます。

質問④「自分にはよいところがある」

この質問では、肯定的な評価が昨年度から5%減少しました。

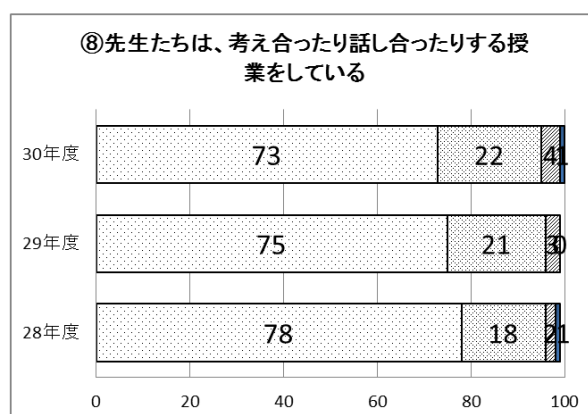
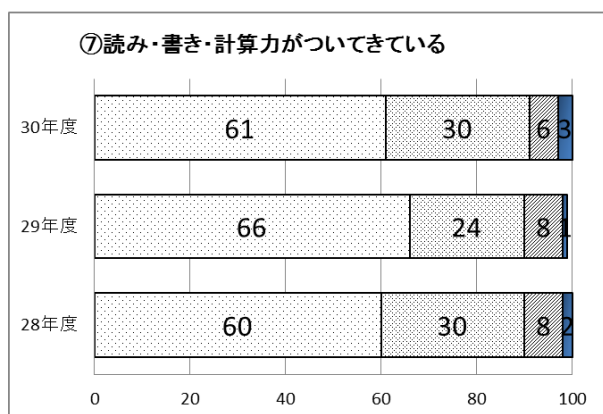
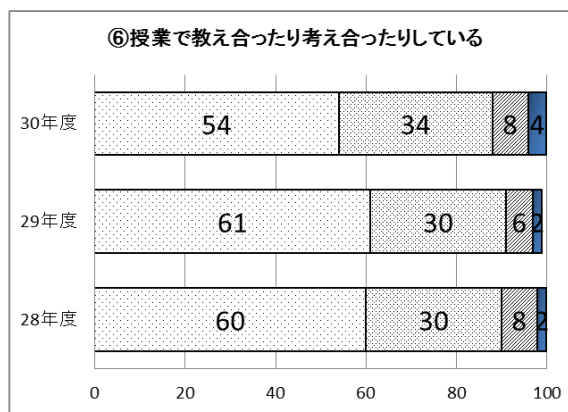
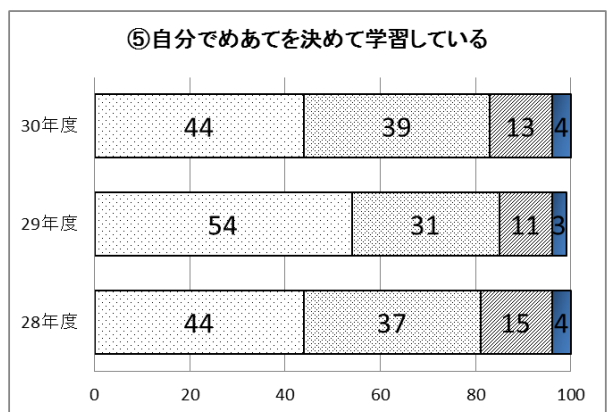
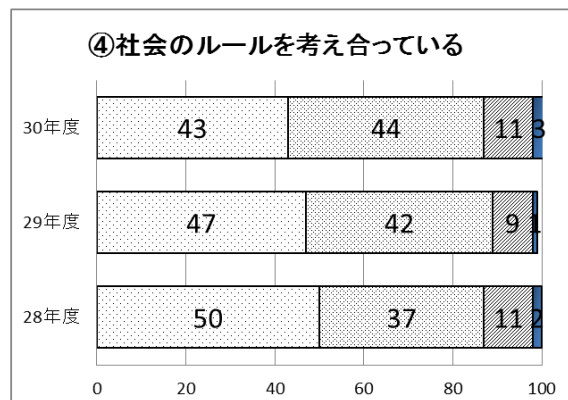
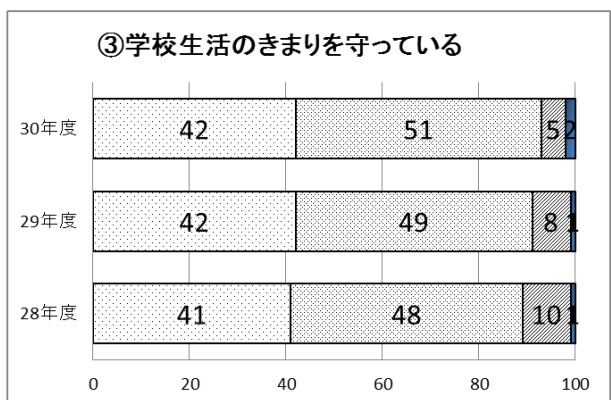
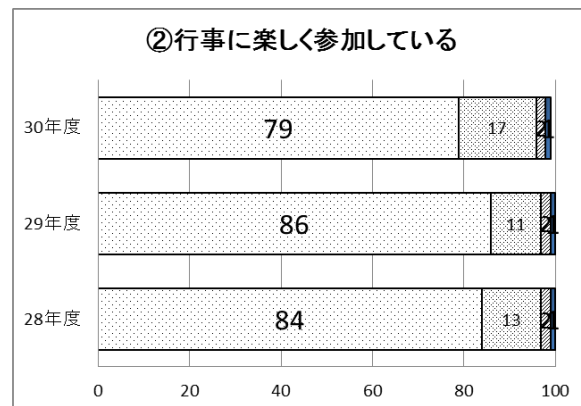
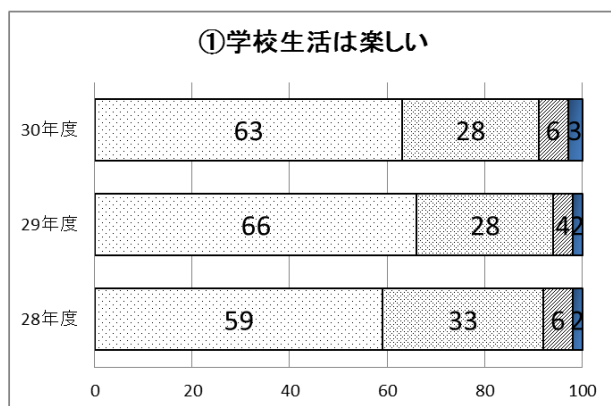
自尊感情は学びや成長の根幹になるものです。自尊感情を高めていくために、学校では、授業ではもちろんのこと、様々な学校活動を通じて、子どもの良さや成長を伝え、子ども自身がそれを実感できるように働きかけていく必要があると考えます。

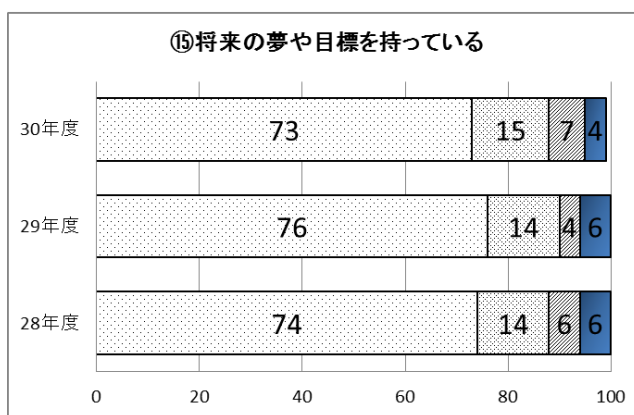
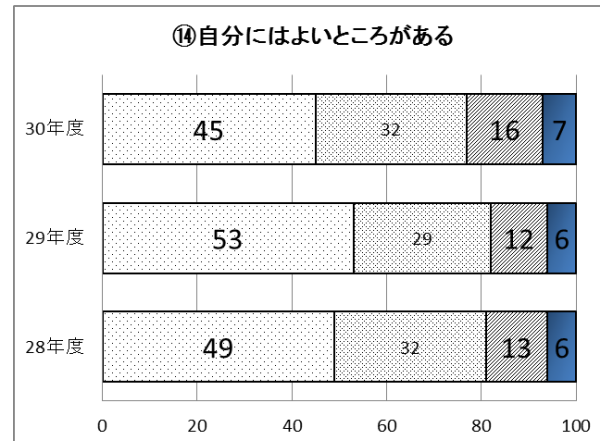
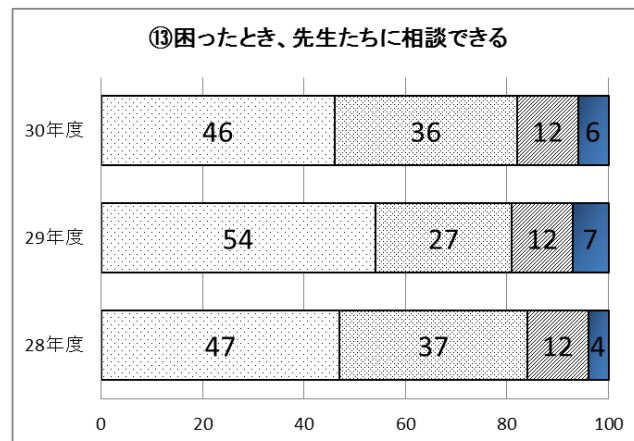
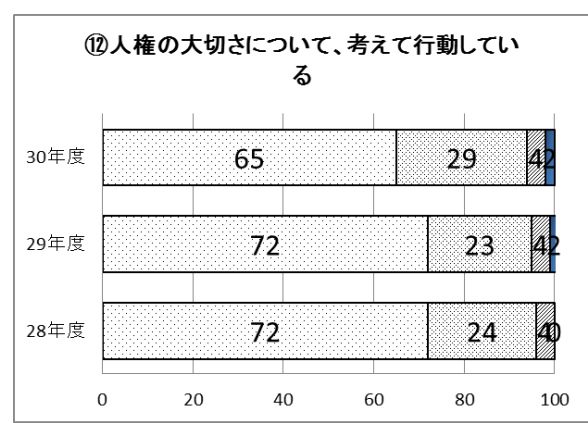
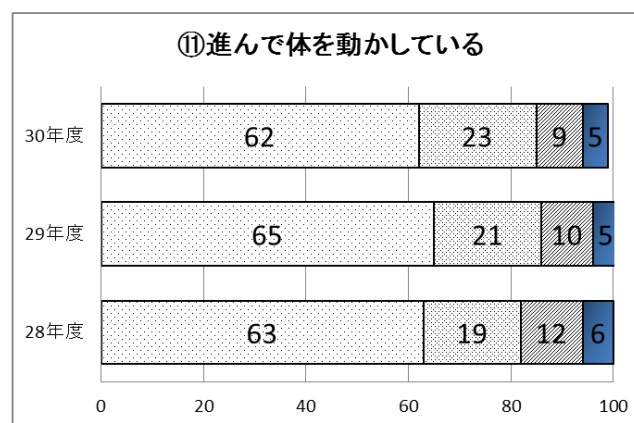
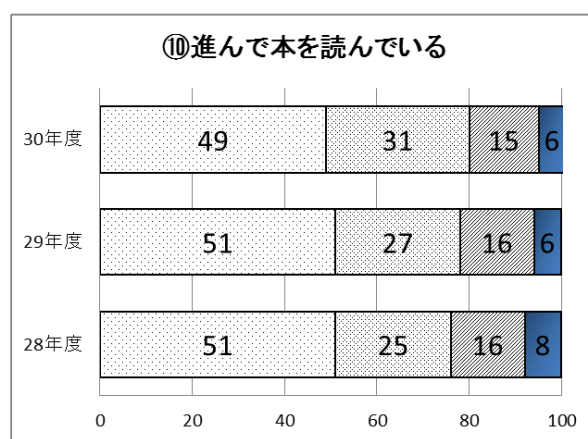
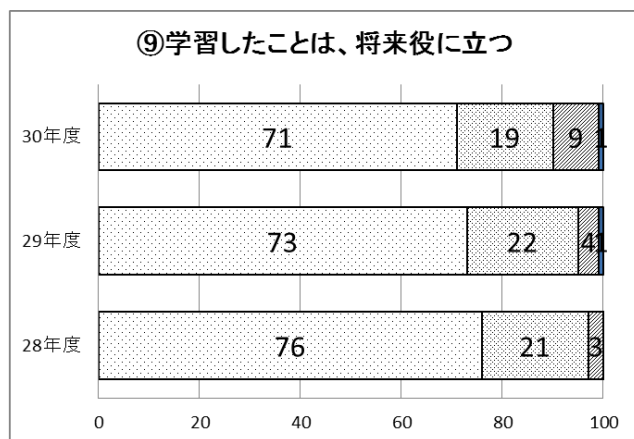
自尊感情は、学校だけで育つものではありません。本校は、コミュニティスクール推進によって、地域の方と共に活動する機会が多くあります。いろいろな方と接することで視野が広がり、褒められたり励まされたりすることも増え、子どもたちの自信や意欲へと繋がっていると考えられます。家庭や地域と協力して取り組みを進めていきたいと考えます。

H30 【児童】教育活動に関するアンケート集計結果

帯グラフの見方 左から

「そう思う」 「だいたいそう思う」 「あまり思わない」 「そうは思わない」





◆学習に関すること

質問⑤「自分でめあてをきめて学習している」

質問⑨「学習したことは、将来役立つ」

両質問とも、肯定的な評価の割合は高い水準を保っているとはいえ、昨年度と比べるとやや数値の低下がみられます。

従来から積極的に行っている外部講師の活用や、体験的な学習を継続させるとともに、そうした人との出会いや学習内容が、子ども一人ひとりの今後に活かすことができるように意識したいと思います。そのためにも、学習めあての明確化、共に考え話し合う場の設定、学習後の振り返りの充実などに努めたいと考えています。

質問⑫「人権の大切さについて、考えて行動している」

肯定的な評価に大きな変化は見られませんが、昨年度に比べ1%上昇しています。今年度から、道徳が教科化されたことにより、指導内容や評価の在り方を、全職員で再度共通理解し、指導にあたってきたことも影響していると思われます。今後も、教科書を有効的に活用することはもちろん、他の教材や自作教材を積極的に活用するなど、目の前の子どもたちの実態をしっかりととらえた上で、指導にあたっていきたいと考えています。

質問⑥「授業中友だちとかかわり合いながら学びを深めている」

質問⑧「先生たちは、友だちと考え合ったり話し合ったりする授業をしてくれる。

先生たちは、わかりやすく授業をしてくれる。」

90%近くの児童が肯定的な評価をしています。昨年度に比べると若干、数値の低下が見られます。

本校の研修テーマを『自分の思いを伝え、高め合う授業づくりを目指して』とし、今年度は特に、「子どもたちの学びが深まるような課題づくり」に力を入れてきました。このような日々の取り組みの中で、子どもたちの授業に対する意欲が持続していると考えられます。

今後も、学習意欲が高まるような授業づくり、個に応じた対応を図り、学力の定着を目指していきたいと考えています。

質問⑪「進んで体を動かしている」

肯定的な評価が3年連続で上昇し、80%を超えました。休み時間には、たくさんの子がドッジボールやサッカー、おにごっこなど運動場で思い思いの遊びをして、運動場が手狭に感じられる程です。これは、体育の授業やなわとび月間などの継続的な取組が実を結んでいることの表れと思われます。今後も体を動かすことが楽しいと思えるような働きかけや取組を続けていきます。

◆生活（友達関係を含む）に関すること

質問③「学校生活の決まりを守っている」

3年連続で肯定的な評価が伸び、規範意識の高まりが見られます。これまでの職員によるきめ細かい指導と、児童会を中心に、子どもたち自身による決まりを守るための取り組みの成果と考えられます。

全体的に学校のルールを守らなければならないという意識が定着していて、学校が安定している様子を表しています。否定的な評価をつけた児童の中には、むしろ自律的に振り返り、さらに学校をよくしたいという思いが表れたものも含まれていると思われます。

質問④「社会のルールについてみんなで考え合うことができる」

肯定的な評価をしている児童は、昨年と比べて2%減りましたが、大きな差異はないと考えます。社会のルールに関する指導といえば日常的なマナーから交通規則、人権感覚に至るまで多岐にわたります。道徳・学活などの授業にとどまらず、交通安全・防犯・人権・ネットモラルにかかわる授業や、修学旅行や自然教室、社会見学等の校外学習など、多方面にわたり取り組んできました。アンケートの時点で、どういう授業や話し合いがそれに当たるのか、具体的な例を示すとより考えやすくなったと思われる。

質問⑬「困ったとき、先生たちに相談できる」

否定的な評価をした児童は、悩みを外に出しにくい児童と思われます。アンケート時にC・D回答をしてきた児童に、聞き取りをして、しっかりと個別対応をしていき、次年度に引き継いでいきます。また、相談内容や児童の情報については、必要に応じて職員間で共有を図り、校内組織や外部の相談機関とも連携を図りながら対応にあたっていきます。